

日本のこころ⑫「万葉集」課題

1 ウォーミングアップ①

- ① 宮廷歌人
- ② 蛇足
- ③ 妻に対する一途な思い
- ④ シルクロードの終着点
- ⑤ 命がけの渡航
- ⑥ 決死の覚悟
- ⑦ 栄転
- ⑧ 母子手帳
- ⑨ はなむけの歌
- ⑩ 蜘蛛の巣が張る
- ⑪ 鞭
- ⑫ 繁栄から取り残された村
- ⑬ 花より団子
- ⑭ 泣き上戸
- ⑮ 中国の古典を引用する
- ⑯ 外国人労働者
- ⑰ カネの亡者

⑱遺書

⑲スノータイヤ

⑳絞首刑

2 ウォーミングアップ②

①「万葉集」の歌枕は全国津々浦々に分布する。

②神々が降り立つという山

③文学で政権批判をした彼を地元で顕彰しても罰は当たらない。

④朱塗りの柱のみが復元されており、古を偲ばせる。

⑤古代の息吹が感じられるものが凝縮されていた。

⑥見ながら出雲の存在が霞んできた。

⑦それは周りの風景にそぐわない。

⑧彼らは別れの際再び会えないことを念頭に置いた。

⑨櫓をたくさんつけた船

⑩案の定、峠を越えると雨だった。

⑪鳥取県東部と西部では「万葉集」に対する温度差がある。

⑫いわば大宰府は「国境の町」だったのだ。

⑬悲痛な叫びは読む人の心を突き刺す。

⑭目に見えないものがこの銅像に凝縮されている。

⑮軍部は戦争を美化するために「万葉集」を利用した。

⑯新春に雪が降っている。これは春から縁起がいい。

⑰彼らはリレーのようにバトンタッチしながらこれを編纂した。

⑱子煩悩なまでに我が子を想う気持ち

⑲梅には「渋い」イメージがある。

⑳史実より伝説のほうが真実味をもって人の心をつかむ。

3 翻訳

①このミュージアムでは歌人たちをロボットにして語らせているが、動きがぎこちなく、興ざめだ。ただシアターやパネル、蠟人形などによる紹介など、欠点を補って余りある展示内容だ。

②日本では、神々のなすがままになにごとも素直に受け入れ、それに対してはっきりと口に出して意見しないものだ。でも今ばかりははっきりと言わせてほしい。くれぐれもご無事で、生きて帰ってきてほしい。

③彼は冷血漢としての里長を登場させた。今でいうなら国税庁の役人だが、「末端公務員」の男に鞭を持たせるという描写は、遠回しにその「親分」たる天皇に対する批判に思えてくる。

④「万葉集」の歌人たちは天皇を賛美し、妻や夫、我が子を想い、自然、そして酒を愛する。皇族から庶民までが全国津々浦々で思いを歌う、このバラエティの広さ。「万葉集」の「万」とはカオスなまでのバラエティを表しているのだ。

⑤社会の下層に追いやられた人々の心を「万葉集」に入れないではいられなかった彼の地味な偉業がなければ、おそらく後世の我々は防人の心の内を推し量ることはおろか、存在にさえ気づかなかっただろう。

(宿題ここまで。ここから先は授業までご覧にならないでください。)

4 通訳

①村の窮状をつぶさに見てきた彼が、唐の都長安を模した豪華絢爛な奈良の都に戻った最晩年に、地方と都のギャップに罪悪感をすら抱いたであろうことも想像に難くない。

②博多は観光客が多い割には観光地が少ないとはいえ、九州一のグルメの町である。鍋なら水炊き、麺類なら豚骨ラーメンや天ぷらうどん、副食品なら辛子明太子などが浮かぶ。

③「万葉集」には「恋の歌」が数多くあるが、万葉の時代における「恋」とは love とは訳しづらい。なぜなら、思う人にあっているときは「恋」とは言えず、離れていて会えないときこそ「恋」というからだ。

④ここは特攻隊員たちから「お母さん」と呼ばれて親しまれた女将が切り盛りしていた店だ。同調圧力の強かった当時、彼女は隊員たちの心に寄り添い、「木っ端役人」たる憲兵に立ち向かった。

⑤当時は縁起が良いことを言えばよいことが起き、縁起が悪いことを言えば悪いことが起きると考えられていたから「万葉集」の最後を飾る一首は、めでたさを表している。

5 スピーチテーマ

①A 和歌集 B 砂丘 C 凧揚げ

②A 歌枕 B 藍染め C 零戦

③A 玄界灘 B 校倉造 C 寒波